

メールマガジン 2023年8月

先日、日本から残暑見舞いのお葉書を頂きました。文字通り日本はまだまだ猛暑が続き、その上台風の直撃等、心が休まる時がないのではと案じています。主の御言葉によって、慰めと安らぎが与えられますようにお祈りいたします。もうしばらくは厳しい残暑が続くようですから皆さまのお身体が支えられますように心からお祈りしております。

私は幸いにも元気に過ごしており、8月3日～6日まで、毎年恒例となっている「ヨーロッパキリスト者の集い」に参加し、通常の生活では得ることができない有意義な時を過ごして参りました。この会の一つの特徴として、大人のプログラムと並行して、子どもやユースたちの集会が行われています。

今年で40年目を迎えましたが、その実りの一つとして、参加していた子どもたちが成長して奉仕者となり、そこでクリスチャンカップルが誕生して2組の方々が結婚へと導かれ、今ではご夫妻で奉仕しています。また、献身者も起こされ、既に日本へ遣わされている方、更に派遣を祈り求めている方もおられ、神さまがこの集会を祝福してくださっていると実感しています。世代交代が進展し、私たちは徐々に一線から退き、陰で祈り支えてゆく新しい時代がやってきたように思われています。

集会では、特別講演の一人として、ウクライナ・オデッサで宣教している船越真人宣教師ご夫妻をお招きし、車で3日間かけてドイツに到着されました。尊い命が奪われている苛酷極まりない状況と同時に積極果敢に伝道を繰り広げられていることが報告されました。先生から発せられる言葉に耳を傾け、心が張り裂けるような痛みを覚えましたが、それと同時に戦禍の中で福音によって支えられている現地の方々のお姿を目の当たりにして、御言葉の真実と力に触れることができました。尚、キリスト者の集いの様々なプログラムが、どなたでもインターネットで閲覧できますので、よろしかったらご覧ください。<https://www.europetsudo.net> 「第40回Stuttgart 特設サイト」より

集会から戻り、聖書の学び会にて、「平和」について皆さまとディスカッションしました。戦争を批判しても憎悪が増すだけで何も産み出すことはできません。信仰者として行きつくところは神の御国がこの世に訪れることを切に祈ることこそが、私たちにできること、私たちにはこれしかない、ということを書き記してみました。8月末に発行される月報の巻頭言にそのような思いを書き記してみました。今月末には、教会のホームページに月報を掲載する予定ですので、一読頂けると幸いです。「ケルン・ボン日本語キリスト教会」HP <http://koelnbonn.jp/>

「支える会」のホームページにはドイツの様子がわかる写真も掲載しています。過去のメールマガジンも見やすくなりましたので、是非ご覧ください。<http://www.komatsugawa-ch.com/PfarrerIn-Ryokosasaki/mailmagazine.html>



↑キリスト者のつどい集合写真

約、220名の参加

↓このような子どもたちが青年になり
次世代を担ってゆく希望



ウクライナからいらした船越先生の講演

